

筆舌に尽くし難い苦難、計り知れない損害と苦痛を経験された
沖縄県民に心を寄せ、正しい歴史認識を後世に語り継ぎ、
恒久平和の実現に力を尽くす決議（案）

本市は、世界連邦平和都市宣言を発して70年である。

近年では、市内全ての小・中・義務教育学校においては、戦争の悲惨さ、
平和の尊さを学ぶため、広島県、沖縄県へ訪問し、平和学習を行っている。

とりわけ、沖縄戦において、沖縄県民は国内最大の地上戦を経験し、多
くの方々が犠牲となり、筆舌に尽くし難い苦難を経験されたこと、何の罪
もない人々に、計り知れない損害と苦痛を与えた戦争を、国策として我が
国が進めたことを事実として、日本国政府も談話や国会答弁を行っている。

しかしながら、主権者である国民の信託を受け、全国民を代表して国政
の審議に当たる重要な職責を担っている国会議員による、信じ難い発言や
見解があったことで、沖縄県民のみならず多くの方の心を深く傷つけた。
これに対し、遺憾の意を表明する。

今を生きる私たちができることは、悲惨な経験を風化させることなく、
歴史に敬意をもって丁寧に向き合い、全ての戦争犠牲者の記憶を継承し、
史実に基づいた正しい歴史認識を決して忘れることなく、後世に伝え続け
ることである。

亀岡市議会は、令和3年9月議会において、「沖縄戦戦没者の遺骨等混
入土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書」を全会一致で可決し
ている。今後も、会派や立場を超え、沖縄県民の心情に寄り添い、沖縄戦
の歴史に真摯に向き合うことを表するとともに、再び戦争の悲しみが繰り
かえされることのないよう、恒久平和の実現に力を尽くしていく。

以上、決議する。

令和7年6月 日

亀岡市議会